

IRG N1395

Title: Further examples to suggest possible dis-unification of specific CJK Compatibility Ideographs

This document is informative.

As discussed in the IRG #29 CJK D discussion about U+753E and U+2F936 (IRG N1353), there is a possibility these once-unified characters are found to be non-cognate.

The followings is a summary of Compatibility vs. Unified ideographs with different readings and/or meanings in *Dai-Kanwa Jiten* (and presumably in *Kangxi Zidian*).

𠃊 (U+4E41), 𠃋 (U+2F802)

<p>【𠃊】 110 キ、フ 及、𠃊、古文及、秦刻石如𠃊此。 〔集韻〕及、秦刻石文作𠃊。</p>	<p>【𠃋】 109 イ 〔集韻〕余支切</p>	<p>解字 指事。𠃊の反對の形を寫して、引かれ流れる意を示す。字解を見よ。</p>	<p>參考 𠃊(1-107)は別字。(康熙字典、辨似、二字相似)𠃊、音弗、左戾也。𠃊、音移、流也。</p>	<p>小 ●ながれる。(説文)𠃊、流也、從𠃊、反𠃊、讀若𠃊移。●注音符號の韻符の一。複韻母。舌の中央の稍、前方を半折してせを發音する情態とし、直ちに舌を上升して一を發音する情態として、此の兩音の混合して成る音。エイ。ei。正形は𠃊。</p>	<p>【𠃋】 109 イ 〔集韻〕余支切</p>
--	--------------------------------------	---	---	--	--------------------------------------

092/110

5C6E

中

0-6578
0-6988

中

2-212B
2-0111

𠃉

0-5625
0-5405

𠃊

2-2E4C
2-1444

𠃋 (U+2F878)

【中】

7826

サ (玉篇)作可切

𠃊

𠃋

小 ひだりの手。左(4-8720)に通
ず。(説文)中、左手也、象形。(段

注)俗以左右爲ナ又字。

解字

象形。𠃋を左手とし、𠃊を右手とする。手のかたちにかたどる。一説に、反又(𠃊)に従ひ、指事といふ。後、𠃊の字を左の字とし、左(たすく)の義は佐に作る。(説文通訓定聲)𠃋、按从反又、指事、𠃋、所以左又手者也、經傳皆以左爲之。

参考 中(4-7826)は別字。(康熙字典、辨似、二字

相似)中音微、草木初生也。𠃋、同左。

𠃋 𠃊 𠃉 𠃈 𠃇 𠃆 𠃅 𠃄 𠃃 𠃂 𠃁 𠃀

【中】

7825

𠃋

𠃊

(集韻)數列切
𠃋

𠃊

𠃉

小 曰め。めばえ。めばえる。めぐむ。(説文)中、艸木初生也、象

一出形有枝莖也、讀若微。(六書故)

中、草木之生也微、故从艸之半。𠃉(𠃉-

30638)の古字。(説文)中、古文或曰爲艸

字。(集韻)𠃉、或作中。

解字

象形。くさのめばえた形にかたどる。一は伸びるさまをあらはし、兩旁は其の枝をあらはす。假借して艸の字とする。(説文、中艸木初生也象一出形有枝莖也)古文或曰爲艸字、段注「一、讀若微、引而上行也、枝、讀兩旁、莖、枝柱、讀一也、過乎中、則爲中、下垂、根則爲中、云云、凡云古文以爲某字者、此明六書之段借。」

参考 中(4-7826)は別字。(康熙字典、辨似、二字

相似)中、音微、草木初生也。𠃉、同左。

扌 (U+625D), 扌 (U+2F8B4)

【扌】
11800

ウ
扌 (5-11799) に同じ。〔正字通〕
扌、六書統作扌。

扌

11801

□ ク コ
ウ ヲ

〔集韻〕空胡切

處

〔集韻〕汪胡切

處

□ あげる。〔方言、十二〕扌、揚也。〔注〕謂
播揚也。□ ひく。〔集韻〕扌、引也。

〔考〕正字通には扌 (5-11799) に同じとし、扌
(5-11800) に作るを正しいとしてゐる。〔正字

普 (U+669C), 𠂔 (U+2F8D5)

【𠂔】

14312

テ
イ

替 (5-14300) に同じ。〔説文〕
𠂔、替、或从𠂔。

【𠂔】

14082

フ

普 (5-13982) の本字。〔康熙字典〕
説文、普、作𠂔。

書 (U+66F8), 書 (U+2F8CC)

【書】 13928 チウ 書(9-13928)の簡文。(説文) 書、書、籀文書。

【参考】 日部の書(9-14294)は別字。中華大字典は 書(9-29223)に作る。

【書】 14294 シ、ロ [集韻]商居切 魚 書、書、俗作『書』。(説文)書、著也、从『聿』者聲。〔許慎、説文解字〕著於竹帛謂之書、書者、如也。〔孝經緯〕神契、書者、如也、舒也、紀也。〔廣雅、釋言〕書、記也。〔周禮、地官、黨正〕而書其德行道藝。〔注〕書、記之也。〔論語、衛靈公〕子張書諸紳。●もじ。文字。〔周禮、地官、保氏〕五曰、六書。〔注〕六書、象形・會意・轉注・處事・假借・諧聲也。〔周禮、地官、大司徒〕禮樂射御書數。〔注〕書、六書之品。〔史記、孫武傳〕夜至斫木下、見白書。〔中庸〕書同文。〔許慎、説文解字〕黃帝之史倉頡、初造書契、依類象形、故謂之文、其後

書(9-29223)に作る。もと 書、書、俗作『書』。(説文)書、著也、从『聿』者聲。〔許慎、説文解字〕著於竹帛謂之書、書者、如也。〔孝經緯〕神契、書者、如也、舒也、紀也。〔廣雅、釋言〕書、記也。〔周禮、地官、黨正〕而書其德行道藝。〔注〕書、記之也。〔論語、衛靈公〕子張書諸紳。●もじ。文字。〔周禮、地官、保氏〕五曰、六書。〔注〕六書、象形・會意・轉注・處事・假借・諧聲也。〔周禮、地官、大司徒〕禮樂射御書數。〔注〕書、六書之品。〔史記、孫武傳〕夜至斫木下、見白書。〔中庸〕書同文。〔許慎、説文解字〕黃帝之史倉頡、初造書契、依類象形、故謂之文、其後

汎 (U+6C4E), 汎 (U+2F8FA)

【汎】 17120 汎、汎、浮兒、从水、凡聲。(段注)兒、當作也。(國語、晉語三)汎舟於河。〔注〕汎、浮也。●た、たよ。風波のままに流れうかぶさま。〔正字通〕汎、任、風波、自縱也。(詩、邶風、柏舟)亦汎其流。(楚辭、宋玉、招魂)汎崇蘭些、注)汎、猶汎汎、搖動貌。●ひろい。汎(9-17101)に通ず。〔説文通訓定聲〕汎、假借爲汎。(廣雅、釋詁四)汎、博也。〔論語、學而〕汎愛衆。(集注)汎、廣也。●おほい。(淮南子、本經訓)汎汎、衆也。●あまねし。(漢書、谷永傳)永於經書、汎汎、疏達。〔注〕師古曰、汎、普也。(魏書、莊帝紀)普汎加一級。●かるい。汎汎。(左思、魏都賦)過以汎汎之單慧。〔注〕劉曰、方言、汎、輕也。●はやい。汎汎。(詩、邶風、二子乘舟)汎汎其景。(傳)汎汎然迅疾而不礙也。●泛(9-17298)に同じ。●姓。(萬姓統譜)汎疑、漢末人。●うかぶ。(集韻)汎、浮也。●汎(7-17766)に同じ。(玉篇)汎、同汎。●あのかすかなさま。汎、汎。或は泛(9-17298)に作る。(集韻)汎、汎、聲微小兒、或从乏。

汎、汎、浮兒、从水、凡聲。(段注)兒、當作也。(國語、晉語三)汎舟於河。〔注〕汎、浮也。●た、たよ。風波のままに流れうかぶさま。〔正字通〕汎、任、風波、自縱也。(詩、邶風、柏舟)亦汎其流。(楚辭、宋玉、招魂)汎崇蘭些、注)汎、猶汎汎、搖動貌。●ひろい。汎(9-17101)に通ず。〔説文通訓定聲〕汎、假借爲汎。(廣雅、釋詁四)汎、博也。〔論語、學而〕汎愛衆。(集注)汎、廣也。●おほい。(淮南子、本經訓)汎汎、衆也。●あまねし。(漢書、谷永傳)永於經書、汎汎、疏達。〔注〕師古曰、汎、普也。(魏書、莊帝紀)普汎加一級。●かるい。汎汎。(左思、魏都賦)過以汎汎之單慧。〔注〕劉曰、方言、汎、輕也。●はやい。汎汎。(詩、邶風、二子乘舟)汎汎其景。(傳)汎汎然迅疾而不礙也。●泛(9-17298)に同じ。●姓。(萬姓統譜)汎疑、漢末人。●うかぶ。(集韻)汎、浮也。●汎(7-17766)に同じ。(玉篇)汎、同汎。●あのかすかなさま。汎、汎。或は泛(9-17298)に作る。(集韻)汎、汎、聲微小兒、或从乏。

汎 49206

グワン 汎(9-17119)の本字。

【笛】
21761

㇀サイ (集韻) 將來切
㇁シ (集韻) 莊持切
㇂灰

㇀●**ちやびつ**。㇃(4-8675)・灾(7-1888
1)・裁(7-19008)・災(7-18923)・苗(9-3
1413)に通ず。(正字通) 笛、舊本譌省作
笛、音哉、引秦紀、笛害絕晏、音支、與笛
同、不知說文秦紀本作笛、非从㇃作
笛也。㇃・笛・灾・裁・灾、古通、笛通作笛。
●笛吟は、わざ。職業。(集韻) 笛、廣雅、笛
吟、業也。㇀●**あれた**。耕さない田。苗(9-
31413)に同じ。(說文) 苗、不耕田也、从
艸田、㇃聲、笛、笛或省艸。(集韻) 苗、說文、
不耕田、引易、不苗、徐鍇曰、从艸艸
田、田不耕則艸塞之、或省。●**立ち枯れ**
の木。樞(9-15072)に同じ。(集韻) 樞、爾
雅、木立死、樞、通作笛。

【笛】
21742

㇀シ (集韻) 莊持切
㇁シ (集韻) 側吏切
㇂真

㇀●**ほとぎ**。かめ。古、由(9-1808)に作る。
(集韻) 笛、說文、東楚名、缶曰笛、古作由。
●**川の名**。淄(7-17918)に同じ。(韻會) 淄、
水名、出泰山、云云、亦作笛。(漢書、地理
志上) 惟笛其道。㇀**あらた**。開墾一年の田。
(集韻) 笛、田一歲曰笛。

【参考】 四畫の笛(7-21761)は別字。字彙が笛をわ
ざはひと訓じ、笛に同じとするは誤。集韻が笛
を笛に作り、ほとぎと訓ずるも同じく誤。(正字
通) 笛、舊本譌省作笛、音哉、引秦紀、笛害絕晏、
音支、與笛同、不知說文秦紀本作笛、非从
㇃作笛也。(中華大字典) 笛、集韻、笛同、笛、
同、由、竝誤。

【笛丘】**しん**。縣名。漢、置く。故城は安徽省宿
縣の東北。(漢書、地理志下) 楚國、縣七、笛丘。
【笛郷】**びん**。縣名。漢、置く。侯國。山東省の
境。(漢書、地理志上) 山陽國、縣二十三、笛郷。
(注) 侯國。
【笛縣】**びん**。縣名。漢、置く。周の蔽國。後漢、
考城と改む。故城は河南省考城縣の東南。(漢
書、地理志下) 梁國、縣八、笛。(注) 故蔽國、應劭
曰、章帝改曰考城。

朧 (U+43D9), 朧 (U+2F8D7)

【朧】
14344

テ
ン

〔篇海〕直遠切

𠄎

月の入つた後の光。〔篇海〕朧、月落有
明也。

【朧】
29321

日
ト
ン

〔集韻〕他感切

𠄎

然

小

日●肉の汁のかす。〔説文〕朧、

肉汁滓也、从レ肉尤聲。●醢(一)

39941)の古字。〔説文、朧、句讀〕此醢之古

臄 (U+440B), 臄 (U+2F984)

【臄】
14379

ス
ソ
ウ

〔字彙〕倉紅切

𠄎

赤い色。〔字彙〕臄、赤色。

【参考】 肉部の臄(9-29639)は別字。

【臄】
29639

ス
ソ
ウ

〔字彙補〕子公切

𠄎

病む。〔字彙補〕臄、病也。

【参考】 月の部の臄(9-14379)とは別字。

鼎 U+9F0F (D48320)

鼎

U+2FA1A (D48317)

【鼎】

48317

ベキ
ミヤク

〔集韻〕莫狄切

𠩺

鼎

小段
篆本注

●かなへのおほひ。かなへのふた。茅をあんで作る。〔段注〕

本説文〕鼎、鼎覆也、从鼎一、一亦聲。〔段注〕此九字、各本無、以鼎篆解、牛頭馬頭而合之、今補正、鼎見禮經、所以覆鼎、用茅爲之、今本作鼎、正字也、禮、古文作密、段借字也、从鼎一者、一、覆也、一亦聲者、據冥字之解、知之、古者覆巾謂之幪、鼎蓋謂之鼎、而禮經時亦通用、

【鼎】

48320

ケイ
キヤウ
〔説文、段注〕
古葵切
〔集韻〕圭亥切

𠩺 𠩺

鼎

小説
篆文

鼎

小段
篆本注

●かなへのみみ
づる。鼎の兩耳に貫

いて之を持ち上げる木。〔説文〕鼎、目、木、横、貫、鼎耳、舉之、从鼎、門聲、周禮、廟門容、大鼎七箇、卽易玉鉉大吉也。〔段注〕禮經十、七篇、多言鼎、注多言、今文爲鉉、古文鼎爲密、按、扇者段借字、鼎者正字、鉉者、音近義同字也、以木橫、母鼎耳、是曰鼎、兩手舉、其木之端、是曰扛、鼎、鼎橫、於鼎蓋之上、故禮經必先言抽、扇乃後取、鼎、猶扇爲、戶外閉之關、故或以扇代之也、玉篇有、門部、此从之爲聲、古葵切、按、大小徐、篆皆作、解作、門聲莫狄切、以鼎蓋字之音、加、諸橫、母鼎耳、之義、誤矣、廣韻、集韻、禮部韻略、玉篇、類篇皆佚、此字、然廣韻、玉篇皆云、亡狄切、鼎蓋也、則鼎字、尙未亡、集韻、類篇引、橫、貫、鼎耳、云云、於錫韻、冥狄切、而鼎字亡矣、惟匡謬正俗及毛晃禮部韻略增字獨不誤。●扇(6-11728)に同じ。〔字彙〕鼎、與、扇同、以、木貫、鼎也。●●に同じ。鉉(11-40290)に同じ。〔集韻〕鉉、舉、鼎、亦作鼎。

參考 鼎(U+9F0F)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似、鼎、與、器同、覆、食巾、鼎、與、扇同、以、木貫、

諤

U+27966 (D35246)

諤

U+2F9CC (D35232)

【諤】

35246

ク、ワ

(五音集韻)

于戈切

歌

こたへをこばむ。「五音集韻」諤、拒膺也。

【諤】

35232

ク

諤(0-35232)の本字。(正字通) 諤、諤本字。

Interesting article on cognateness of 刊 (U+520A) and 刊 (U+520B), found in Daikanwa-Jiten.

二 畫

刊 1863

日キ (集韻) 渠羈切
 日キ (集韻) 居希切
 日カイ (集韻) 居代切

刊(2-1882)に同じ。或は𠄎(10-34017)・𠄎(9-17051)・𠄎(9-1704)に作る。(集韻)刊、斷也、到也、鄭康成曰、刊、羽牲曰刊、或作𠄎、氣、亦書作氣。(正字通)刊、同刊、俗省。

刊 1864

ク ヨウ (集韻) 活紅切

●かま。(廣雅、釋器)銜、謂之刊。●か。(韻會)刊、刈也。●けづる。(篇海)刊、割、削物也。

刊 1865

カン (集韻) 丘寒切

刊 小 ●けづる。(說文)刊、到也、从刀干聲。(廣雅、釋詁)刊、刊、削也。(禮、雜記上)刊、其柄與末。(注)刊、猶削也。(周禮、秋官、柞氏)夏日至、令刊陽木而火之、冬日至、令刊陰木而水之。●きる。(書、禹貢)隨山刊木。(傳)斬木通道。●のぞく。(左氏、襄、二十五)并埋木刊。(注)刊、除也。●さだめる。(廣雅、釋詁四)刊、定也。●さむ。(晉書、孫綽傳)必須結綽為禪文、然後刊石焉。●書物を出版する。(字彙)刊、楊慎曰、劉歆答揚雄、懸諸日月、不刊之書、

言、不可削除也、今俗誤作刻、梓之用、各處鄉試序多云、刊其文之佳者若干篇、張睿甫曰、刊字亦可用、刊其字外之餘木、而後字成、故刻字謂之刊、猶遷官而謂之除也。(元好問、贈趙參謀詩)墨本賴君刊。●采(9-14708)に通ず。(說文通訓定聲)刊、假借為采。(漢書、地理志上)隨山采木。(注)師古曰、采、古刊字也。●竿(9-23534)に通ず。(說文通訓定聲)刊、假借為竿、儀禮、既夕記、抗木刊。

【參考】刊は音カン、木に刻して書を印する意であり、刊は音ケン、けづるの意で、無用・誤謬を訂し削る意とし、二字を分ける説もあるが、畢竟、同字で筆勢の異なつたにすぎぬ。(正字通)刊、或曰、刊、削也、春秋序、刊而正之、以示勸戒、劉歆序、揚雄方言云、縣、諸日月、不刊之書、謂不可削也、李鼎臣周易集解、削、王弼宗、鄭玄、序云、刊、輔嗣之野文、翼、康成之逸象、是也、宋人謂、刊、刻、木印、書、如、王氏揮塵錄所云、郡府多刊文籍、以刊為刻、誤矣、說見韻會小補、舊本專引、楊說、非、又、張睿甫曰、刊、其字外餘木、而後字成、故刻字謂之刊、猶遷官謂之除也、按、此說未確、舊注存張說、亦非、毛氏曰、从、干、戈之干、俗作刊、非、按、刊、即刊之譌文。(字彙、辨似、二字相似)刊、音菴、切也、旁从、干、刊、看平聲、削也、从、干、戈之干。

【刊改】きざみ直す。訂正。(後漢書、鄭玄傳論)鄭玄括囊大典、網羅衆家、刪裁繁蕪、刊改漏失、自是學者略知所歸。
 【刊行】書物を版に彫つて世に出す。出版印行。發行。刊刻。上梓。(書林清話、唐天祐刻書之偽)日本水野梅曉行笥中有文選歸去來辭、卷尾刻大唐天祐二年秋九月八日餘杭龍興寺沙門无遠刊行字一行。
 【刊校】文字の誤をけづり正す。(談苑)雍熙中、太宗以九經多譌謬、俾加刊校。
 【刊啓】きりひらく。わかす。(鮑照、石帆銘)在昔鴻荒、刊啓濼陸。